

かずやしんぶん

16号



尾野一矢さんについて

一矢さんは1973年3月26日座間市生まれで、53歳です。彼には重度の知的障害と自閉症があります。両親と姉の4人家族で一緒に暮らしていましたが、共働きの両親が世話を続けるのが難しくなり、中学1年生のときに障害児向けの施設に入所しました。そして成人してからは23歳のときに相模原市緑区の県立障害者施設「津久井やまゆり園」に入所しましたが、2016年7月26日、障害者19人が刺殺、職員2人を含む計26人が重軽傷を負わされる「相模原障害者施設殺傷事件」が起きました。犯人はこの施設の元職員で「障害者はいなくなればいい」と主張するなど、障害のある人を差別・排除する考えをあらわにしました。一矢さんも首や腹などに重傷を負いながらも何とか一命は取り留め、徐々に回復に向かいました。両親は重度の障害がある人が暮らす場所は施設以外ではなく、このまま施設での暮らしがずっと続くものと思っていました。しかし、重度の知的障害のある人が支援を受けながら地域のアパートで一人暮らしをする取り組みがある事を、映画「道草」(宍戸大裕監督)やNPO法人「自立生活企画」(東京都西東京市)との出会いにより知りました。集団生活を送る施設ではどうしても一矢さんのペースで生活することは難しく、もっと自由な生活をさせてあげたいという思いが両親の背中を押しました。そこで2018年8月から地域生活を見据えて、自立生活企画の介護者が週1回施設に出向き、家族と一緒に昼食を共にしながら一矢さんとの信頼関係を築いて行きました。そして2年後の2020年8月、故郷の座間市でようやくアパート生活を始めることができました。



施設での生活が計35年ほどに及ぶ一矢さんにとっては戸惑うことばかりの日々かもしれませぬ。それは、私たち介護者も同じです。ともに悩み、そして楽しみながら手探りの日々を送っています。そんな一矢さんですが、いたって普通のおじさんです(笑)。ポテトサラダ、ハンバーグ、納豆、たくあん、板チョコ、缶コーヒーや「一本橋」という手遊びが大好きです。もし一矢さんが「一本橋」と言って手を差し出してきたら、それは「友だちになりたい」というあなたへの親愛の証です。ぜひ相手になってください(介護者が遊び方をお伝えします)。一矢さんは平日の日中は作業所で活動していますが、わが家である「かずやんち」(一矢さんはこう表現します)でのゆったりとした時間が何よりも大好きです。一矢さんはその時の気分で、部屋で大声を出してしまうこともあります。この生活を大変気に入っています。私たちはそんな一矢さんをこれからも支え、共に生き、一矢さんの友だちの輪を広げたいと思っています。何かとご迷惑をお掛けしてしまうかもしれませんが、どうか温かく見守っていただければありがたいです。



第 46 回神奈川県障害者施策審議会

3/27 審議委員の猿渡達明さんからのお声かけで、第 46 回神奈川県障害者施策審議会に傍聴参加させていただきました。

一矢さんの地域移行後の変化や事件当時、命がけて携帯電話を探し出し結束バンドで身動きの取れない職員に手渡し、それが通報にも繋がったエピソード、ヤマユリ園事件後 10 年で、いまだに一矢さん以外には施設やグループホームからの地域移行、地域自立が進んでいない現状など皆様にお話しいただきました。そんな猿渡さんの



声に響き合うように、笑い声を上げたり、「ちゃんとやらないからだめ～！」と叫んだり審議会の場で一矢さんと猿渡さんの声が重なり合うように響き合う、そんな時間がありました。

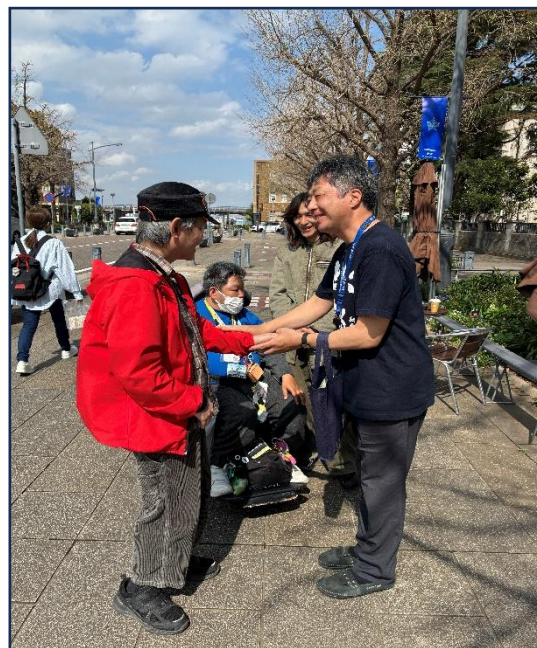


やはり当事者である一矢さんの存在感が目の前にあり、それを実際に体感してもらうと言うこと、それ自体にすごく大きな意味があると思います。53歳の誕生日後の初仕事、立派に勤めてくれました。

県の職員さんとも

「一本橋こ～ちょこちょ！」

猿渡さん貴重な機会を頂きありがとうございました。



洗心の1日...



ゴールデンウィークも終盤、憲法記念日振替休日、インクルージョン国際ナショナル事務総長の長瀬修さんと東洋大学の社会福祉学助教の勝又健太さんが

遊びにいらしてくれました。

大好きな鰻丼を食べた後、皆さんで鎌倉の円覚寺へ向かいました。



金澤翔子さんの書も飾られていて、とても心洗われる1日になりました。合掌

尾野一矢さん 53歳の誕生日

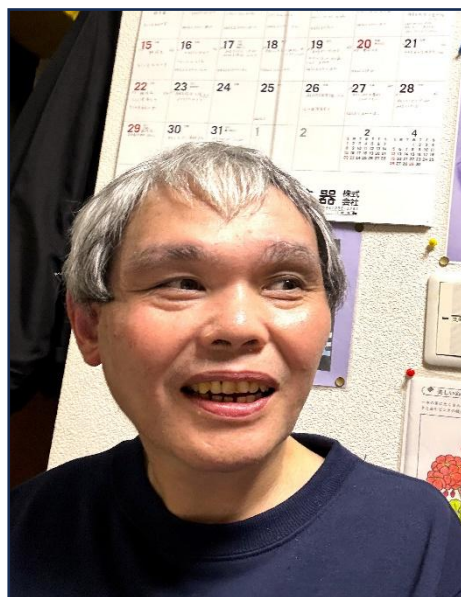


尾野一矢さんは、3月26日おかげさまで無事53歳の誕生日を迎えることができました。たくさんの温かいお祝いのメッセージをいただき誠にありがとうございます。

今年は事件から10年、一矢さんの地域以降も6年

目に入りますが、皆さんの意識が変わり、

重い障害があっても誰もが地域でたり前に暮らせる社会に向けて、ますます活動の場を広げて行きたいと思っています。どうかこれからも暖かく見守っていただきますよう宜しくお願いいたします。



じぶんぐらしの本

以前、「楽しい生活応援団」ということで、一矢さんの暮らしなど地域で一人暮らしをする知的障害の方の生活を紹介してくれた本を作ってくれま



したが、その続編として3名の方(かんちゃん、ひーやん、ゆうくん)の暮らしを紹介した「じぶんぐらし

の本」が出版されました。クラウドファンディングで皆さんの協力をお願いし、ようやく形

になりました。ご協力ありがとうございました。



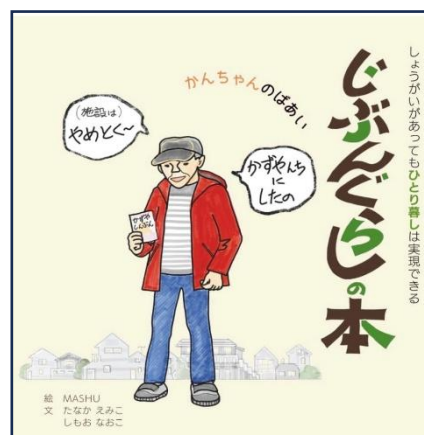
ひーやんとカプカプ川和にて

『かんちゃんのばあい』じぶんぐらし絵本シリーズ③
作者:しもなおこ, たなかえみこ イラスト:MASHU
本文は別掲載で「読む」より「見る」絵本。
文字に頼らず伝わる、「かんちゃんの日」。
くっきりしっかりしたイラストで、かんちゃんの日を描きました。
文字は全てQRコードに読み聞かせ文として入れました。
読まなくちゃ！
という余計な強迫観なく、読んでもらう、見てわかる絵本です。

書 籍:

ハードカバー版¥2,970 (税込)

ペーパーバック版¥1,320 (税込)



「私たちのことを私たち抜きに決めないで(Nothing About us without us)」を合言葉に世界中の障害のある人たちが参加し作成された「障害者権利条約」。批准国である日本に対し国連の権利委員会による初めての審査がスイスのジュネーブで2022年8月22日から2日間行われました。権利委員会は「**(やまゆり園)事件を経て、このような施設で暮らす人達が沢山いる事について考え直した事はあるんでしょうか**」と指摘。「障害のない人と平等に施設から地域社会で自立した生活へ移行することを目指し期限付きの数値目標、人材、技術、資金を伴う法的枠組みや国家戦略、その実施のための都道府県の義務付けを開始すること」を求めました。にもかかわらず国による地域移行の現状は年々減速しており、いまでもおよそ約13万人が施設で暮らしています。次回の審査は2028年、早急にヘルパーの育成など地域の体制づくりを進め「脱施設化」に向けた動きを実行していく事が求められています。



発行 かずやさんとその仲間たち

〒252-0005

神奈川県座間市さがみ野3丁目2-19-101

メール kazuya.ono811@gmail.com

Facebook “尾野一矢日記”

<https://www.facebook.com/onokazuyanikki>

ホームページ

“よってけ一矢んち” <http://ono-kazuya.com/>

発行日 2026年5月



“尾野一矢日記”



“よってけ一矢んち”